

第2回相馬港復旧検討会 議事概要

日時等：令和4年4月26日（火）13：00～15：00（WEB）

1. 主な議事

- 事務局（東北地方整備局及び福島県）より、被災状況に係る追加調査の実施状況や被災メカニズム、復旧方針案等について説明した後、構成員による意見交換を行った。

2. 主な意見

（3-1 岸壁）

- 余震観測結果を踏まえた地震時応答解析（FLIP）による照査をした結果、どのような対策を取るか、変形許容量や費用面等を考慮して検討すべき。
- ケーソン背後の沈下対策については、各対策の目的、地震後の利用や復旧の容易さ、変位への追随性等を踏まえて検討すべき。沈下対策のうち、ケーソン背後端部と背後地に目地を設ける案については、数か所ではなく全延長にわたり実施しても良いのでは。

（矢板式岸壁）

- 矢板式岸壁の全施設において、当初設計からその後の施工履歴（過去の地震被害を受けて復旧してきた履歴）を整理した上で、今回の設計方針を決定すべき。
- 矢板本体のみならず控え杭の健全性についても確認してほしい。
- 矢板本体の変位を正確に把握するために、水中調査を実施した潜水士へのヒアリングも行ってほしい。
- 2号ふ頭の矢板式岸壁についても、1号ふ頭と同様な検証を行うか検討してほしい。

（その他全般）

- 重力式岸壁のケーソン間の目地対策については、5号ふ頭で講じられた工法も有用。吸い出し対策工について、港湾の施設の技術上の基準・同解説を令和4年4月1日に部分改訂しているので参考にしてほしい。
- 岸壁の水平移動については、東日本大震災時の水平移動分もあるので、マウンド（基礎捨石）部の健全性についても検証をすべき。
- 予め金属鉋を岸壁に埋め込んでおき、災害時にGNSSで即座に変位量が把握できる技術を取り込むなども有用ではないか。

以上